

ぬじ水ばぬ

近畿甲虫同好会々報

一通巻オク号一

昭和35年9月30日発行

編輯者、大阪府東北区高石
町北609 後藤光男

近畿甲虫同好会

兵庫県神戸市東灘区御影町
天神山46

大阪付近のタイコクコガネ属の産地

後藤光男

邦産のタイコクコガネ属は今かところ、ヒメダイコク・ゴホンダイコク・ミヤマダイコク・ダイコクコガネの4種で、大阪付近にはヒメダイコクを除いた3種が採集できる。この中でもつと多量なのはゴホンダイコクで奈良・箕面・黄船あたりで、暮より秋に多く採れるが、タイコクコガネとミヤマダイコクは以前でも大変歩なく仲々採るこゝが出来なかつた種であるが、それとタイコクコガネの方は戦前に箕面を年にノース頭は採集されていて、タイコクコガネが採れるところといえは箕面に限られていた様であり、私もノースをせしめていたが、戦争中の乱伐につぐ乱伐で、そのの鬼事に依りばらわられたし、又戦後は鑑光の名のせいで見違えるほど発展してしまつて、タイコクコガネどころか数の多かつたオオセンチコガネさえも採れなくなつてしまつた。ミヤマダイコクの方は黄船のあたりで、ちよいちよい採集され、私自身も牛糞下で右廻鞘にだけお目にかかつて、してやつたりと喜こんだ時もあったが、こゝも箕面の畑にせしめず黄船神社から上が全く伐材され、その上道村が孤けられて静寂そのものであつた芥生の里も、カソリンの臭と警備の昨今であり、近頃はこの辺りでミヤマダイコクを採集したといふ話を聞かないが、比良山や湯の山での記録があり、又最近では国見山で採集したと聞いている。私がこゝ数年に通い出したダイコクコガネの産地に兵庫長生野がある、この生野だけは以前でも思いもよらなかつた所であり、又採集に行つた人もおらなかつたので、生野は鉾山の町ぐらゐしか思つていなかった私は、生野にダイコクコガネが多いと聞いても、その頃の信州熱にうかされていた私であれば見向きもしなかつたらうと思はれる。こゝへ始めて行つたのは四日市にいた頃で、大倉さんより生野でダイコクコガネが沢山採れるがどうかと、水を売られたのが始まりで、ワザワザ休暇をとつて前日に大倉さん宅でお世話になり、翌早朝神戸をたつて出掛けて行つたが話のとおり沢山のダイコクであつた。それとに度々訪れた信州の牧場でもダイコクコガネを採した私にはびっくりする程の数の多いダイコクコガネであつたけれども、敏の割に角の角の見事なのは非常に少なくやはりダイコクコガネは信州と感深くしたことを覚えてゐる。数の上では今まで文程採れるところは経験したこともなかつたから、時間の許す限り採集して、飯りの車中で一分何頭に当るかなと計算して見たりしたが、この時の僕物はその頃三重県の石梁師にいた市橋甫氏の手を煩はして、その殆んどを三重

県立の種畜場に放してしまい、市橋氏も鈴鹿の地をはなれた現在、あれからもう四年であるがその后日を聞かない。私が大阪勤務となつてから、時季をかえて生野に足を運んでいるが、時季的に数の多い少ないはあつてもやはり生野の食糞コガネのなかでのダイコクコガネは数の多い部類であらう。本年も9月に入り、18日と23日の2回行つてきたが、さすがに9月中旬以降では数が少なく23日の採集では非常な苦勞をせねばならなかつた。生野におけるダイコクコガネは7月中旬頃から次第に数を増し、8月中旬から下旬にかけてが最盛期で、この頃は牛糞の表面をめぐつただけで糞中に沢山おるが、9月に入り中旬に向うにつれ糞下の地中の穴にいる方が多くて、9月下旬では糞下の穴も非常に深いと感じられた。このような状態から見ると10月に入れば全然ダイコクコガネの姿が見られぬか相当な苦勞をしても数が得られぬのではなからうか、ここの糞虫でもう一つ興味のある種はオオセンチコガネで、8月中下旬に沢山いるこの種も9月中旬では全然その姿が見られず、實面よ、賣船や養老で採集される金赤色に縁の光沢を含んだ個体よりも、信州の菅平や美ヶ原か上越の場の乳牧場あたりと同系統の多分に紫がかつた個体が多いようである。ゴホンダイコクは、わざわざ生野で採集しなくとも手近で採集出来るのであまり興味を感じないが、ミヤマダイコクは湯の山でも本年灯火に飛来した4頭を市橋甫氏が採集したと知らされてきている。又比良山にリフトが設けられて大変足場がよくなり、その上観光ホテルの計画もあるので、採集出来る機械が多くなると思はれるし、国見山の山の家も完備されてここからも次の記録があると思じているが、ダイコクコガネはいまのところ生野以外では採集出来ないようである。終りに生野の牧場についてふれておくが、私が生野といつてゐるのは生野の町から少しくはなれた藤ヶ柵牧場（正確には神崎町）であつて、生野に近い鉾ヶ峰の山麓には処々に放牧場があるが、少しく足場が悪いので私は訪ねたことがない。この藤ヶ柵も生野の駅から徒歩で約40分はかかり、常時牛が放牧されているのでなく、附近の農家の牛を朝に連れてきて夕刻連れ返るという様子らしく、その数も十数頭が最高らしく、私がいつも見るのはせいぜい7・8頭の時が多いようである。

月例会開催日の変更

従来毎月第4土曜日に開催していましたが、回を重ねること約30回になりました。しかし開催日が月末近くになるため、何かと忙しく出席できかねるとの声が発員の中から出ていますので、次回から第3土曜日に変更いたします。又、月例会は今まで研究発表・文献や珍しい標本の回覧・スライドの映写などを行うとともに、標本の同定もして来ました。今後はこれらを続けます外に、当日の出席者に甲虫のリストや標本の頒布など、新しい企画を考えています。どうか虫友おささい合せ、多数御出席下さるようお待ちしております。

★ 次の開催日は → 11月19日(土) → 12月17日(土)です。

★ 場所は従来 どおり → 大阪市立自然科学博物館です。

新入会員

285
286
287
288
289



住所変更

243
66
276



月例会

(於 大阪市立自然科学博物館)

- ★ 第27回例会 昭和35年6月25日
出席者：藤田国雄・林匡夫・林靖彦・河野洋・大倉正文・芝田太一
- ★ 第28回例会 昭和35年7月23日
出席者：藤田国夫・林匡夫・生谷義一・河野洋・大倉正文・沢田高平・
芝田太一・和田繁次・横山剣
- 林匡夫：国見山の甲虫類について
- ★ 第29回例会 昭和35年8月27日
出席者：藤田国雄・後藤光男・林匡夫・河野洋・大倉正文・芝田太一・
吉川正彦
- 林匡夫：8月における平倉の甲虫類について

用具・文献 などお世話いたし度いと思ひます

このたび不用の文献や針・標本箱その他をお世話することにいたしました。とりあえず下記の品々をお世話します。御希望の旨がございましたら当会事務所又は後藤宛お申越し又は御送金下さい。

- ◎ 甲虫専用扉名・種名ラベル(上質厚紙一面10枚)1枚につき2円屈・種各10枚
幹事・会員方の永年の経験にもとづいて割出された寸法になつておりますので、とても使いよく、志賀秋のドイツ型やインロー型を向はずどの標本箱にでもピッタリです。

◎15周年記念日本手拭 (別註特染最上綿布使用) 1枚につき 100円(干を含む)
 エトにちなんだアカ抜けた木版刷の年賀状で知られる河野洋幹幸の漸進なデザインで、甲虫だけでなく、クモ、トンボ、ハチ、アリを配したとてもスバラシイものです。染上りもいい、虫の配置といい申し分ありませんので、“壁掛”や“の山人”に利用されるとお室とよく調和して見違える程お室を引立てること請合です。15周年を記念して作ったもので枚数に限りがありますから、至急にお申し出て下さい。手拭と申しても手ふきや汗ふきには一寸おしい気がします。

◎志賀昆虫普及社製品のあつせん。

定評ある志賀昆虫普及社製の下記用具を定価によりお世話いたします。これは会員の方で主として京阪神の地域の方を対照としていますので、現金引換えて現品を御自身で引取りに来て下さる方に限ります。本会の例会(オ3土曜日)の教日前迄に当会事務所までお申越下されば例会の席上(大阪市立自然科学博物館)で手渡し出来るようお取計らいいたしますし、又すぐに必要とされる方は会員芝田太一氏宅(大阪市東区淡路町4丁目68 電話:23局8756番)にお出向下さい。芝田氏には会員のため特に手数はことに協力して戴きましたので、出来れば午後から夜間をお願いします。

- ステンレス無頭昆虫針(100本 1包) 1・2・3各号 1包 65円
- インロー型標本箱 大型36×27打(総桐製・厚コルク敷 一級品) 1箱 380円
- 同 上 小型31.5×22打(") 1箱 280円

第12回大会御案内

前号にてお知らせしましたが、つぎのように大会を南催します。本年は本会の創立15周年にも当たりますので、有意義な大会となるよういろいろ盛沢山の計画をしていますので、奮って参加されるようお願いいたします。

日時: 昭和35年10月15日(土曜日) 午後5時30分より(午後8時頃に閉宴したいと思います)

場所: 大東楼(大阪市北区堂島浜1-70 堂ビル前 電話34局2031~3番)

会費: 1000円(味は自慢の北京料理・酒は灘の生一本)

尚本会15周年にかさねしい記念品を出席下さる方の分だけ数を取柄えてお待ちしております。

